

WALKING MAP

～自然の小径～

高低差 約80m
福良湾の景色と自然を楽しむ散歩道

約1kmコース（標準タイム：約30分）
気楽に歩ける散歩道



休暇村南 淡路

兵庫県南あわじ市福良

TEL 0799-52-0291

⑨ サルトリイバラ（登り坂の突き当たり右手）

森の中を抜け、福良湾を背後に階段を上がると、右手側に鋭いトゲを持つ植物があります。このトゲに猿も引っかかることから、「猿取り茨」と名付けられました。丸い葉に特長があり、淡路島では、かつて柏餅の葉の代用として使用されていました。



⑩ 福良湾（キャンプ場ゲート手前）

最後の登り坂を上がりきると、正面には青い福良湾が広がります。大昔、山の谷間であった福良湾は、地殻変動により海水が内陸部に進入し、今から約5000年前に現在のような地形になりました。福良湾上には3年とらふぐなどの養殖を行う生簀が



並び、高台にある休暇村から見る福良湾は「南淡自然八景」の一つに選ばれています。



～ウォーキングについて～

- ウォーキングはひとそれぞれのペースで楽しむことが大切です。
- スニーカーやウォーキングシューズなどの歩きやすい靴を着用しましょう。
- ウォーキングによって生じる疲労を回復するためには、休息をたっぷりとることが大切です。
- こまめに水分補給を行いましょ。

⑥ 亀の手（フリーサイト前の海岸）

キャンプ場のフリーサイト前では、干潮時のみ見ることが出来る亀の手が、海岸の岩間にいます。貝の一種で、亀の手にそっくりな見た目とは裏腹に、味は格別。あさりを濃くしたような味わいで地元の方は塩ゆでにししたり、味噌汁に入れて食べます。



⑦ 煙島（オートサイト前）

キャンプ場前の福良湾側に見える小島は、周囲が約450mの小島には、平敦盛の首塚があります。ここは、平敦盛を茶毘に付した煙から



『煙島』という名前がついたという歴史の島です。貴重な植物が自生しており自然の宝庫です

⑧ トベラ（階段登り口のすぐ右手）

煙島を背に真っすぐ進み、階段を上がるすぐ右手に、5月に白い花をつける「トベラ」があります。熟した果実の表面が3つに割れ、中から赤い粘り気のある種子が露出するトベラは、枝葉に切り込みを入れた時に香る悪臭が特徴で、節分時にはイワシの頭と一緒に魔除けとして使用されます。“トビラに飾る木”と言われたことから現在の「トベラ」となりました。



① 桜（本館前階段下から右手へ）

本館前の階段を下ると、いよいよ自然の小径のスタートです！まず出迎えてくれるのが、“ソメイヨシノ”で、毎年4月の初旬から中旬にかけて、休暇村の園地内に約1000本咲き誇ります。あわじ花へろ第40番札所にも認定されており、福良湾の青と桜のピンクが、美しいコントラストを描いています。



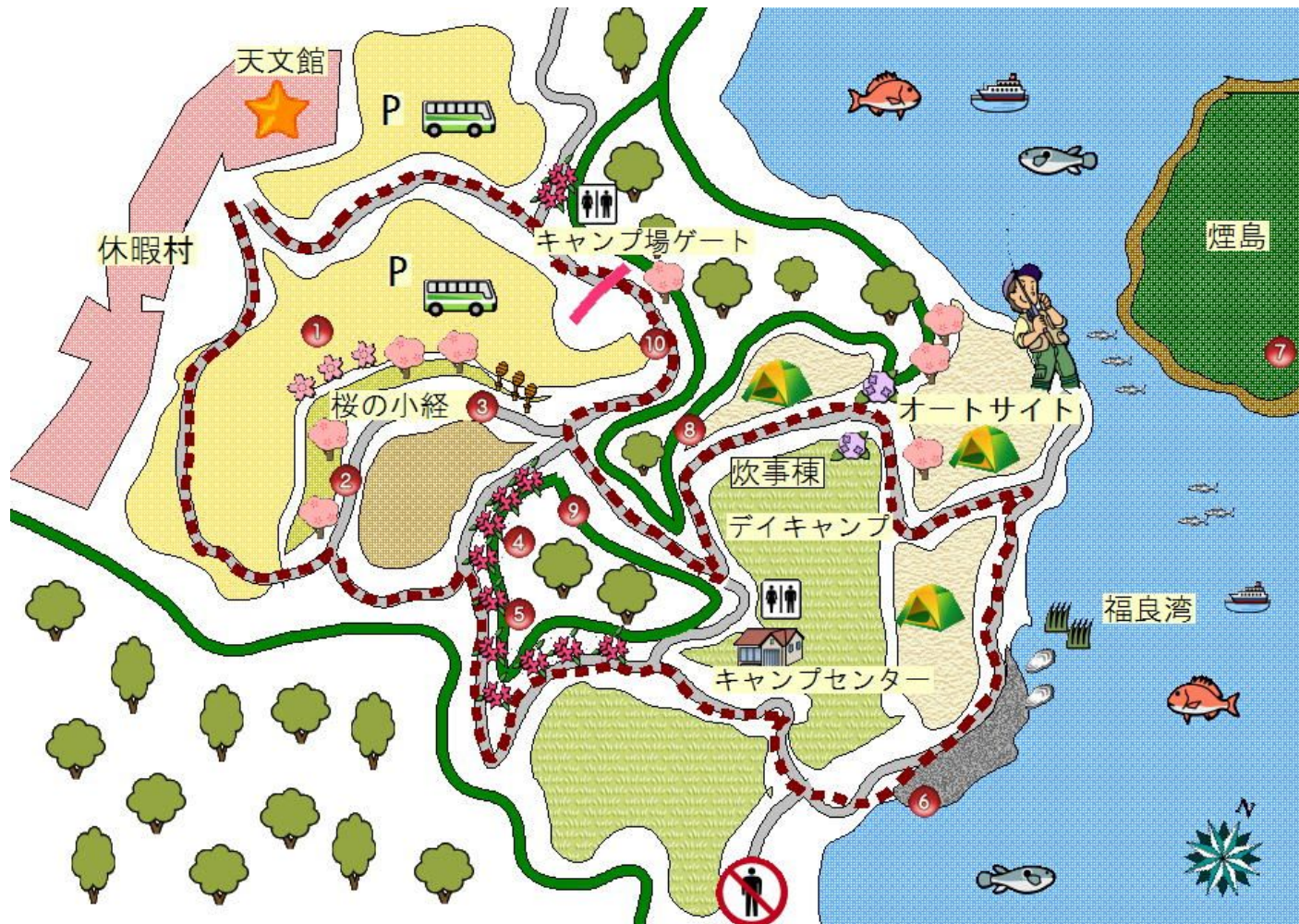
② ソメイヨシノ（階段の左手側）



【桜の歴史】もともと200本程の山桜が自生する岬でした。1968年に休暇村開設5周年を記念して地元住民と従業員が約300本の桜を植樹。その後平成5年と平成10年に併せて約600本の植樹をして現在に至ります。

③ 桜の小径（階段を左の方へ）

冬には“水仙の小径”で賑わうこの道も、春にはソメイヨシノやヤエザクラが咲きます。（例年4月上旬～中旬）3月下旬からは、少しずつ春の訪れを感じさせる土筆（つくし）が顔を出しはじめます。ひっそり咲いているタンポポもお見逃しなく。



④ ヒラドツツジ（道路沿いにあります）

4月上旬から5月上旬にかけて、キャンプ場を下りていく道沿いには綺麗なヒラドツツジがご覧いただけます。赤やピンク、白色など色とりどりの花々が咲きほこり、訪れる人を楽しませてくれます。



⑤ ヤマモモ（下り坂の左手）

園内のあちこちで見かけることができるヤマモモは、毎年6月になると約1センチ半程度の小さな赤い実をつけます。少し酸味のある味が桃に似ていることからヤマモモと呼ばれ、ジャムやお酒、アイスクリームなどの加工品の材料として使われます。園内に実る他のヤマモモも是非見つけてみましょう！

